

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：研究教育開発センター会議

記入責任者：大里和博

基準 2 教育研究組織						
(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
・教育研究組織の編制原理						
【評価に際し留意すべき事項】						
〔達成度評価〕						
①教育研究組織は、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。						
②教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。						
【行動計画】						
自己点検・評価実施部会「教育研究部会」及び自己点検・評価運営委員会において、評価の視点が達成されたかの適正性を検証する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
<p>本学の教育研究組織は、建学の精神を踏まえ、大学、学部、研究科等の理念や目的を実現するために「学部・学科制」を基本としており、3 学部（6 学科）・3 研究科（3 専攻）を設置している。また、学則第 1 条、大学院学則第 2 条において各大学院・研究科並びに学部・学科の目的を設定している（資料 2-1-1, 2-1-2）。</p> <p>このほか、その教育・研究を補完し支える組織として、図書館、附置地域総合研究所、産学官地域連携センター、情報処理センター、児童相談センター、博物館実習施設を整備している。</p> <p>教育研究組織の適切性の検証を行うことの規程となっているかの確認を行い、必要に応じて規程改正を行っている。</p>						
3. 【長所・特色】						
<p>教育・研究を補完し支える組織として図書館、附置地域総合研究所、産学官地域連携センター、情報処理センターを整備している。また、学部附属の機関として「児童相談センター」（福祉社会学部附属）、「博物館実習施設（考古学ミュージアム）」（国際文化学部附属）が置かれている。</p>						
4. 【課題】						
教育研究組織の適切性の検証を継続的に実施する必要がある。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
教育研究組織の適切性を検証するにあたり、実施部会と各部署・関係委員会を中心とする点検・評価活動を実施する。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
資料 2-1-1 「鹿児島国際大学学則」 大学ホームページ掲載						
http://www.iuk.ac.jp/visitor/zaigaku_hogosya.php						
資料 2-1-2 「鹿児島国際大学大学院学則」 大学ホームページ掲載						
http://www.iuk.ac.jp/visitor/zaigaku_hogosya.php						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

建学の精神を踏まえ、大学、学部、研究科等の理念や目的を実現するために「学部・学科制」を基本とした、3学部（6学科）・3研究科（3専攻）を設置している。また、教育・研究を補完し支える組織として図書館、附置地域総合研究所、産学官地域連携センター、情報処理センターを整備し、学部附属の機関として「児童相談センター」（福祉社会学部附属）、「博物館実習施設（考古学ミュージアム）」（国際文化学部附属）が置かれていることを評価する。

今後、教育研究組織の自己点検・評価が行われ、適切性の検証を継続的に実施することを期待したい。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：研究教育開発センター会議

記入責任者：大里和博

基準 2 教育研究組織						
(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
・理念・目的との適合性						
【評価に際し留意すべき事項】						
〔達成度評価〕						
①教育研究組織は、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。						
②教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。						
【行動計画】						
教育研究組織の理念・目的との適合性に関する検証を各部署・関係委員会において自己点検・評価を行い、実施部会において継続的に実施する。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
建学の精神のもと、「学則」の第 1 条で「目的」を定め、第 4 条の 2 で「教育研究上の目的の公表等」を明文化し、公表している。同様に、大学院は「大学院学則」の第 2 条で「目的」を定め、第 6 条の 2 で「教育研究上の目的の公表等」を明文化し、公表している（資料 2-1-1、資料 2-1-2）。						
また、教育研究組織の適切性の検証を行うことの規程となっているかの確認を行い、必要に応じて規程改正を行ってきている。						
3.【長所・特色】						
特になし。						
4.【課題】						
教育研究組織の適切性を検証するにあたり、実施部会と各部署・関係委員会を中心とする点検・評価活動を行う必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
建学の精神のもと、学則において目的、人材の養成に関する目的、その他研究上の目的を定めていることから、その適切性の検証にあたって、責任主体である教育研究部会及び自己・点検評価運営委員会の位置づけ及び検証プロセスを今後の検証実施を通して具現化していく。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
資料 2-1-1 「鹿児島国際大学学則」 大学ホームページ掲載 http://www.iuk.ac.jp/visitor/zaigaku_hogosya.php						
資料 2-1-2 「鹿児島国際大学大学院学則」 大学ホームページ掲載 http://www.iuk.ac.jp/visitor/zaigaku_hogosya.php						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

建学の精神のもと、学則において目的、人材の養成に関する目的、その他研究上の目的を定めていることを評価する。今後、適切性の検証にあたって、責任主体である教育研究部会及び自己・点検評価運営委員会の位置づけ及び検証プロセスなど今後の検証実施を通して具現化されることを期待する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：研究教育開発センター会議

記入責任者：大里和博

基準 2 教育研究組織						
(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
・ 学術の進展や社会の要請との適合性						
【評価に際し留意すべき事項】						
〔達成度評価〕						
①教育研究組織は、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。						
②教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。						
【行動計画】						
各部署・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、実施部会で適切性を検証する。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
学部・研究科や大学附属機関としての附置地域総合研究所、産学官地域連携センター、情報処理センター等は、教育・研究の両面から学術の進展や地域社会に貢献する機関としての役割を果たしている。また、教育研究組織における取組みに関する適切性の検証は、一部の機関で外部評価を受けている。						
3.【長所・特色】						
建学の精神及び理念・目的に基づき、教育・研究を補完し支える組織（図書館、附置地域総合研究所、産学官地域連携センター、情報処理センター等）においては、地域との結びつきを強め、地域社会に貢献する人材を育成するために、地域連携（産学官）、高大連携、他大学連携、フィールドワーク、インターシップ、生涯学習等の事業を積極的に推進させている。						
4.【課題】						
教育研究組織における学術の進展や社会の要請との適合性の検証を継続的に実施する必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
教育研究組織の適切性を検証するにあたり、実施部会と各部署・関係委員会等を中心とする点検・評価活動を実施する。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
資料 2-1-3 「情報公表 6. その他「社会貢献等(産学官連携、高大連携、大学間連携)」 大学ホームページ掲載 http://www.iuk.ac.jp/kouhyou/						
資料 2-1-4 「IUK TOPICS 数字でみる鹿児島国際大学」 大学ホームページ掲載 http://www.iuk.ac.jp/gakubu/iuk-topics/index.html						
資料 2-1-5 「Only One 「学んだ、感じた、夢実った」」 大学ホームページ掲載 http://www.iuk.ac.jp/gakubu/onlyone/index.html						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

学部・研究科，附置地域総合研究所，産学官地域連携センター，情報処理センター等は，教育・研究の両面から学術の進展や地域社会に貢献する機関としての役割を果たしていることを評価する。また，教育研究組織における取組みに関する適切性の検証として，一部の機関で外部評価を受けており，優れた取組みであるので，継続して実施されることを期待したい。

※各項目について，2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：研究教育開発センター会議

記入責任者：大里和博

基準 2 教育研究組織						
(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	②	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	②	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
【評価に際し留意すべき事項】						
〔達成度評価〕						
①教育研究組織は、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。						
②教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。						
【行動計画】						
教育研究組織の適切性検証については、鹿児島国際大学自己点検・評価規程改正の趣旨に基づき、その機能を持たせるようにするなど各部局・関係委員会において関係する規程を整備し、自己点検・評価を行ったうえで、実施部会において、適切性の検証を継続的に実施する。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
教育研究組織の適切性検証を行うことの規程となっているかの確認を行い、必要に応じて規程改正等を行っている。						
3.【長所・特色】						
特になし。						
4.【課題】						
教育研究組織の適切性を検証するにあたり、実施部会と各部局・関係委員会を中心とする点検・評価活動を継続的に実施する必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
建学の精神のもと、学則において目的、人材の養成に関する目的、その他研究上の目的を定めていることから、その適切性の検証にあたって、責任主体である教育研究部会及び自己・点検評価運営委員会の位置づけ及び検証プロセスを今後の検証実施を通して具現化していく。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
建学の精神のもと、学則において目的、人材の養成に関する目的、その他研究上の目的を定めていることを評価する。今後、適切性の検証にあたって、責任主体である教育研究部会及び自己・点検評価運営委員会の位置づけ及び検証プロセスなどが、自己点検・評価活動を継続して実施していくことで、具現化されることを期待したい。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準3 教育・教員組織						
(1) 大学として求める教員像および教員組織の編成方針を明確に定めているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	①	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	①	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 教員に求める能力・資質等の明確化						
2. 教員構成の明確化						
3. 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価						
① 採用・昇格の基準等において、法令（※）に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 ※学校教育法 92 条, その他大学設置基準, 大学院設置基準, 専門職大学院設置基準等の関係法令参照。						
② 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担, 責任の所在を明確にしていること。						
2. 達成度評価						
① 専門分野に関する能力, 教育に対する姿勢等, 大学として求める教員像を明らかにしたうえで, 当該大学, 学部・研究科の理念・目的を実現するために, 学部・研究科ごとに組織の編成方針を定めているか。また, その方針を教職員で共有しているか。						
② 教員と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。						
【行動計画】						
1. 大学として求める教員像を定める。						
2. 学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定める。						
3. 役職者規程を制定するか、あるいは学則の改正を行う。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
【大学全体】						
1. 大学として求める教員像を定める必要があり, 検討を行ったが, 平成 28 年度末現在では定めることができなかった。						
【大学全体】【各学部】【各研究科】						
2. 学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定める必要があり, 検討を行ったが, 平成 28 年度末現在では定めることができなかった。						
【大学全体】						
3. 役職者の役割分担や責任の所在を明確に定める必要があり, 検討を行ったが, 平成 28 年度末現在では定めることができなかった。						
3.【長所・特色】						
特になし。						

4. 【課題】

1. 平成 29 年度前期中に求める教員像を定め、教職員に周知するとともに、学外に向けて大学のホームページで公開する必要がある。
2. 平成 29 年度前期中に各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を定め、教職員に周知するとともに、学外に向けて大学のホームページで公開する必要がある。
3. 平成 29 年度前期中に役職者規程等の制定を行い、教職員に周知するとともに、学外に向けて大学のホームページで公開する必要がある。

5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】

1. 平成 29 年度前期中に求める教員像を定め、教職員に周知するとともに、学外に向けて大学のホームページで公開する。
2. 平成 29 年度前期中に各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を定め、教職員に周知するとともに、学外に向けて大学のホームページで公開する。
3. 平成 29 年度前期中に役職者規程等の制定を行い、教職員に周知するとともに、学外に向けて大学のホームページで公開する。

6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

- ・法令上必要な専任教員数
- ・鹿児島国際大学教員採用人事規程
- ・鹿児島国際大学教員昇任人事規程
- ・鹿児島国際大学教員資格選考基準に関する内規
- ・鹿児島国際大学教員の資格審査（昇任）申請手続きに関する細則

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

大学として求める教員像、教員組織の編制方針、役職者の役割分担や責任の所在の明確化など検討を行っているが、定めるところまでできていないので、早急に定めることを期待したい。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 3 教育・教員組織						
(2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。						
<各部署・関係委員会評価>	0	①	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	①	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 編成方針に沿った教員組織の整備						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価						
① 当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。※【法令によって定められた必要数】						
② 特定の範囲の年齢に著しく偏らないよう配慮していること。						
【行動計画】						
<ul style="list-style-type: none"> ・法令の基準を満たすような専任教員数を確保するとともに、経済学研究科博士後期課程の研究指導教員を満たすように教員の配置の検討を行う。 ・採用人事委員会等において、年齢構成に著しく偏りが出ないように配慮した採用を行っていく。 						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・法令の基準を満たすような専任教員数は確保されている。また、経済学研究科博士後期課程の研究指導教員は満たされている。 ・採用人事委員会等において、年齢構成に著しく偏りが出ないように配慮した採用を行っていく方向で準備を進めている。 						
3.【長所・特色】						
特になし。						
4.【課題】						
法令に定められた教員数を確保するとともに、特に教職等資格課程に関する専任教員の確保に注意する必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度も関係部門相互の連携を密にし、教員の採用を行う必要がある。 						
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
<ul style="list-style-type: none"> ・法令上必要な専任教員数 ・鹿児島国際大学教員採用人事規程 ・鹿児島国際大学教員昇任人事規程 ・鹿児島国際大学教員資格選考基準に関する内規 ・鹿児島国際大学教員の資格審査（昇任）申請手続きに関する細則 						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

法令の基準を満たす専任教員数は確保され、採用人事委員会等においては、年齢構成に著しく偏りが出ないように配慮した採用を行う方向で準備は進められているが、早急に編成方針が定められることを期待したい。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 3 教育・教員組織						
(2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備						
【評価に際し留意すべき事項】						
【行動計画】						
採用人事委員会及び昇任人事委員会において科目適合性について厳格に審査し、更に教授会でも審査を行う。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
・専任教員の採用及び昇格時に、採用人事委員会及び昇任人事委員会において科目適合性について厳格に審査し、更に教授会でも審査を行った。						
3.【長所・特色】						
特になし。						
4.【課題】						
特になし。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
・平成 29 年度も採用人事委員会及び昇任人事委員会において、厳格に授業科目と担当教員の適合性を判断し採用する。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島国際大学教員採用人事規程 ・鹿児島国際大学教員昇任人事規程 ・鹿児島国際大学教員資格選考基準に関する内規 ・鹿児島国際大学教員の資格審査（昇任）申請手続きに関する細則 						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
専任教員の採用及び昇格時に、採用人事委員会及び昇任人事委員会において科目適合性について厳格に審査を行っており、更に教授会でも審査を行っているため、今後も継続して実施されることを期待したい。
※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準3 教員・教員組織						
(2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
2. 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備						
3. 【修士・博士課程】 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤的評価						
③当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。※【法令によって定められた必要数】						
④特定の範囲の年齢に著しく偏らないよう配慮していること。※大学設置基準第7条第3項						
2. 達成度評価						
①専門分野に関する能力，教育に対する姿勢等，大学として求める教員像を明らかにしたうえで，当該大学，学部・研究科の理念・目的を実現するために，学部・研究科ごとに組織の編成方針を定めているか。また，その方針を教職員で共有しているか。						
②教員と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。						
【行動計画】						
授業計画に関する基本方針に基づき，次年度授業科目担当者及び非常勤講師の審査を行う。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備については，学科会議，教務委員会を経て教授会において担当教員の科目適合性（非常勤講師審査を含む）を判断している。（資料 3-2-1, 3-2-2）						
研究科担当教員の資格の明確化と適正配置については，「研究指導教員資格審査に関する申合わせ」に研究指導教員の資格について示しており，それを基に研究科長の推薦に基づき，資格審査委員会を経て当該研究科会議で審査を行い適正に配置している。（資料 3-2-3, 3-2-4）						
3.【長所・特色】						
特になし						
4.【課題】						
適切性の検証を各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで，実施部会において，継続的に実施する必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
授業計画に関する基本方針に基づき，学科会議，教務委員会を経て教授会において担当教員の科目適合性を判断している。						
研究科担当教員の資格の明確化と適正配置についても，「研究指導教員資格審査に関する申合わせ」に研究指導教員の資格について示しており，それを基に研究科長の推薦に基づき，資格審査委員会を経て当該研究科会議で審査を行い適正に配置している。しかし，鹿児島国際大学自己点検・評価規程改正の趣旨に						

基づいた、適切性の検証については、各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、実施部会において、継続的に実施する必要がある。

6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

1. 資料 3-2-1 授業計画に関する基本方針
2. 資料 3-2-3 教授会議事録
3. 資料 3-2-4 研究指導教員資格審査に関する申合わせ
4. 資料 3-2-5 研究科会議事録

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

学士課程及び研究科において、適切な審査を経て適正に教員組織を整備していることを評価する。

今後は、規程に基づいた適切性の検証を各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、実施部会において、継続的に実施することを期待したい。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 3 教育・教員組織						
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	③	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 教員の募集・採用・昇格等に関する規定および手続きの明確化						
2. 規程等に従った適切な教員人事						
【評価に際し留意すべき事項】						
1 達成度評価						
① 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続きを明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。						
② 教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。						
【行動計画】						
教員の募集・採用・昇格等に関する規定および手続きの明確化、規程等に従った適切な教員人事を行う。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
・教員の募集・採用・昇格等に関する規定および手続きの明確化、規程等に従った適切な教員人事を行った。						
3.【長所・特色】						
特になし。						
4.【課題】						
特になし。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
・平成 29 年度は実施部会と各部局・委員会等を中心とする点検・評価活動を実施する。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
・鹿児島国際大学教員採用人事規程						
・鹿児島国際大学教員昇任人事規程						
・鹿児島国際大学教員資格選考基準に関する内規						
・鹿児島国際大学教員の資格審査（昇任）申請手続きに関する細則						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

教員の募集・採用・昇格等に関する規定及び手続きを整備し、規程等に従った適切な教員人事を行っているので、今後も継続して実施されるのを期待したい。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：総務課・研究教育開発センター会議

記入責任者：津 曲 新 一 ・ 大 里 和 博

基準 3 教育・教員組織						
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。						
<各部署・関係委員会評価>	0	1	②	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	1	②	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 教員の教育研究活動等の評価の実施						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
① 教員の教育研究活動の業績を適切に評価し,教育・研究活動の活性化に努めているか。						
【行動計画】						
(1)教員の教育研究の適切な評価を行う制度の導入の必要性を検討する。						
(2)研究実績等による貢献を評価するとともに, 研究活動の促進及び研究の質を高めるという趣旨で, ①競争的資金等の採択があった研究者へのインセンティブとして「科学研究費等採択助成金」, ②間接経費が措置された競争的資金等へ申請し, 不採択となった研究者へ「研究支援費」を支給する。(資料 3-4-2-1)						
2.【達成状況報告(平成 28 年度末現在)】						
(1)教員の教育研究の適切な評価を行う制度の導入の必要性はまだ検討していない。						
(2)研究者へのインセンティブとして「科学研究費等採択助成金」と「研究支援費」を支給した。						
3.【長所・特色】						
(1)特になし。						
(2)「鹿児島国際大学における科学研究費等採択助成金に係る基本方針」及び「鹿児島国際大学における競争的資金による間接経費の執行に係る基本方針」に基づき, 本学独自の助成金「科学研究費等採択助成金」と「研究支援費」を設定し, 支給している。						
4.【課題】						
(1)教員の教育研究の適切な評価を行う制度の導入の必要性を検討していないため, 検討する必要がある。						
(2) 教育・研究活動の活性化につながるよう, 科学研究費等採択助成事業の公募の周知を図っているが, 申請件数が減少傾向にある。						
5.【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
(1)平成 29 年度中に制度の導入の必要性について検討を行う。						
(2)科学研究費等採択助成事業の公募についての周知を強化する。						

6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

資料 3-4-2-1 2015（平成 27）年 7 月 22 日大学評議会資料

「鹿児島国際大学における科学研究費等採択助成金に係る基本方針」

「鹿児島国際大学における競争的資金による間接経費の執行に係る基本方針」

「競争的資金の申請採択にかかる研究支援について」

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

研究者へのインセンティブとして「科学研究費等採択助成金」と「研究支援費」を支給していることを評価する。

今後、教員の教育研究の適切な評価を行う制度の検討や科学研究費等採択助成事業の公募の周知を図ることで、申請件数が増加するなど教員の教育研究が活性化していくことを期待したい。

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準3 教育・教員組織						
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	②	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	②	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
2. ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施状況と有効性						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
① 教育研究, その他の諸活動 (※) に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。						
※ここでいう諸活動とは, 社会貢献, 管理業務などを含む教員に求められる様々な活動を指す。授業方法の改善等, 教育内容・方法の向上を意図した取り組みについては, 「基準4」(3) で取り扱う。						
【行動計画】						
教育研究, その他の諸活動に関する教員の資質向上を図るため, コンプライアンス, ハラスメント等をテーマに研修を開催する。						
2.【達成状況報告 (平成 28 年度末現在)】						
・コンプライアンス, ハラスメント等をテーマに研修を開催した。						
3.【長所・特色】						
特になし。						
4.【課題】						
・研修会の内容について, 従来のハラスメントに加え個人情報保護を入れる。						
・ハラスメントの研修内容には, ①学生に対し個別指導を業務とする教職員の注意点, ②相談員が相談者 (申出者) から相談を受ける際の対応を入れる。						
5.【全体のまとめ (将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
・教員が全員参加するように, 原則として全員の出席を求めることを明示する。また, 全員が参加しやすいように日程等を工夫する。						
・研修の内容については, 大学を取り巻く環境等の実態に即して見直していく。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						
・平成 28 年度全教職員向け研修会 (コンプライアンス及びハラスメント) への参加について (通知)						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

コンプライアンス、ハラスメント等をテーマにした研修を開催しているが、全教員の参加まではいたっていないので、研修の内容や全員が参加しやすいように日程等を工夫するなど今後の取り組みに期待したい。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。